

大支援研ニュース

特別支援教育

平成25年11月27日発行
 大阪府支援教育研究会
 会長 中島 智子
 (松原市立河合小学校長)

ホームページで
 お知らせが
 ある場合があります
 ます

<http://daishienken.visithp.com/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

jimukyoku2009@daishienken.visithp.com

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

◇平成25年度の役員総会の予定

役員総会（役員の方はご予約願います。）

第3回 日時：平成26年1月21日(火) 午後3時～5時 : たかつガーデン 8階 たかつ(西)

会場は、たかつガーデンです。また、曜日にもご注意ください。

冬季研修会のご案内 **内容と申し込み方法は二次案内をご覧ください。**

日時 平成26年（2014年）1月25日(土)

午前10時～午後3時15分（9時40分 受付開始）

全体会（午前10時～12時） 分科会（午後1時15分～3時15分）

場所 大阪府教育センター

午前の部 全体会 午前10時～12時 （9時40分 受付開始）

「子どもたちの将来をみすえた指導・支援の充実」

大阪府立泉北高等支援学校校長 長谷川陽一先生

午後の部 3分科会 午後1時15分～3時15分 （1時 受付開始）

(A)「教育アセスメントの意義と活用」～WISC-IV、K-ABC IIを中心に～

大阪府立佐野支援学校 清水謙二先生

(B) 支援教育に関わる福祉制度について

大阪手をつなぐ育成会 支援センター中 所長 杉山萬千子氏

(C) 研究部担当 各地区からの実践報告

①「ビジョントレーニングを学級に取り入れて」

和泉市立国府小学校 井阪幸恵先生・川村亜紀先生・徳永清恵先生

② 人生の振り返りと将来に向けてのステップ ～ICTを利活用した発表会の実践報告～

大阪府立寝屋川支援学校 森脇 啓仁先生

申し込み期間 平成25年12月 9日(月) ～ 26年 1月10日(金)

<http://daishienken.visithp.com>

ICT活用プロジェクト夏期講座報告**添付の報告をご覧ください。**

2013年8月15日（木）、16日（金）に開催された大支援研研究部ICT活用プロジェクト夏期講座について、参加された方々の感想をもとに報告させていただきます。

夏期講座の内容は、今年度も支援機器製作講座、自作ソフト製作講座（Flash）、支援教材活用講座（iPad、DAISY等）、教材作り講座（エクセル活用、ワード活用、パワーポイント活用等）、ICTの活用に関する講演に加え、支援機器の展示会を実施しました。

今年度も各講座に参加された方々からは、少人数体制で講師の先生と参加者が身近にじっくりと活動できたことや、最新のICT活用方法と活用状況を教えてもらえたこと等、たくさんの喜びの声を頂きました。今年も大阪支援教育コンピュータ研究会のご協力を頂き、講師紹介から講師派遣、また、前日及び夏期講座実施中の二日間、連日に渡ってのスタッフ派遣等、準備段階から実施当日まで多数の方々の協力をいただきました。本当にありがとうございました。

昨年度に引き続き、会場を大阪府教育センターで実施しました。2日間の参加延べ人数は、275名（15日123名、16日152名）でした。

夏期講座に参加した方々から多数のアンケートを頂きました。有難うございました。アンケートを元に今後も「9月から使える支援教育でのICT活用」を目指して、開設講座の選定と運営の改善を図っていきたいと思っています。

ニュースに添付の報告は配布用として写真等を縮小してありますが、ホームページでは、写真が大きい見やすい報告をご覧ください。 <http://daishienken.visithp.com>

各支部からの報告**堺市立小学校支援学級・支援学校合同レクレーション大会**

平成25年6月20日（木） 鴨谷体育館、平成25年6月21日（金） 初芝体育館
堺市の小学校支援学校を4つのグループに分けレクレーション大会を実施しました。
たくさんの学校の児童が楽しく交流し、半日を過ごしました。

写真入り記事をホームページにアップしてあります。 <http://daishienken.visithp.com>

他支部（各支部や各市町村）の行事も投稿いただければ、ホームページにて紹介させていただきますので、よろしくお願ひします。

大支援研研究部 ICT 活用プロジェクト夏期講座の報告

ICT プロジェクト夏期講座事務局 平峰 厚正

2013年8月15日(木)、16日(金)に開催された大支援研研究部ICT活用プロジェクト夏期講座について、参加された方々の感想をもとに報告させていただきます。

夏期講座の内容は、今年度も支援機器製作講座、自作ソフト製作講座(Flash)、支援教材活用講座(iPad、DAISY等)、教材作り講座(エクセル活用、ワード活用、パワーポイント活用等)、ICTの活用に関する講演に加え、支援機器の展示会を実施しました。

今年度も各講座に参加された方々からは、少人数体制で講師の先生と参加者が身近にじっくりと活動できたことや、最新のICT活用方法と活用状況を教えてもらえたこと等、たくさんの喜びの声を頂きました。

今年も大阪支援教育コンピュータ研究会のご協力を頂き、講師紹介から講師派遣、また、前日及び夏期講座実施中の二日間、連日に渡ってのスタッフ派遣等、準備段階から実施当日まで多数の方々の協力をいただきました。本当にありがとうございました。

昨年度に引き続き、会場を大阪府教育センターで実施しました。2日間の参加延べ人数は、275名(15日123名、16日152名)でした。

夏期講座に参加した方々から多数のアンケートを頂きました。有難うございました。アンケートを元に今後も「9月から使える支援教育でのICT活用」を目指して、開設講座の選定と運営の改善を図っていきたいと思っています。

各講座の様子

A 講座

講演「インクルーシブ教育システム構築のための

ICTの活用～障害者差別解消法と合理的な配慮での支援技術～」

講師：金森 克浩 先生、

ゲストスピーカー：丹羽 登先生



1. 感想

- 長い教師生活の中で今年度初めて支援学級の担任になりました。一からの勉強と思いこの研修に参加させていただきました。支援に対する深い部分のお話を聞かせていただき自分の無知を痛感しました。専門的な言葉だけが自分の頭の中を行きかかっていました。ちょっと私には難しかったです。知識という面でもっと努力がいることも知りました。ありがとうございました。
- 金森先生の久しぶりの硬派の話、丹羽先生の話、現在の状況がよく分かりました。
- バラバラだった法令関係の情報が整理されてよかった。丹羽先生の参加がサプライズで、とてもラッキーでした。質疑応答の時間が充分とれてよかった。
- 基礎的環境整備、ユニバーサル化、合理的な配慮について、質疑応答より理解が深まりました。最新の支援教育関係の動向についても話を聞くことができ勉強になりました。ありがとうございました。

B 講座

講演「これからの支援教育での ICT 利活用を考える」

助言者：丹羽 登 先生 講師：大島 友子 先生

1. 感想

- 様々な先生方にいろいろなお話をしていたとき、とても参考になりました。合理的配慮やインクルーシブなど、これからの特別支援教育は、次々と変わって行くと感じました。少しでも子どもたちの学校生活が豊かになっていけばいいなと思いました。ディスカッションで、悩みについて、みなさん日々がんばっておられるなど実感しました。これから私もがんばりたいと思いました。
- リラックスしたムードで司会進行がとても良かったです。グループ討議では、お一人お一人の思いや考えが短い時間の中で聞かせていただけて良かったです。丹羽先生のお話からも、（支援教育の）動向を聞かせていただき、障害の捉え方、考え方について、考えさせていただけただけでも良かったです。
- グループディスカッションがあると分かった時は、「嫌やなあ…。」と思いましたが、実際やってみると得るものが多く良かったと思いました。ICT は、子どもたちの可能性を広げる重要なカギだと感じました。自分には、どんなことができるか考えていきたいと思います。
- 楽しかったです。金森先生の講座とセットで、障害者差別解消法および合理的配慮について、よく考えることができました。ありがとうございました。また、office365 の紹介もありがとうございました。



講座 C

講義「マルチメディア DAISY の紹介と事例報告」

講師：田中 直壽 先生

1. 感想

- 実践事例が具体的にあり、ソフト使用の効用が実証的で分かり良かったと思います。ICT によるサポートが、子どもの自信、意欲につながることで改めて分かり、教育現場で今後使用していけばと思うことができました。教材を頂けてありがたいです。
- 自分が以前勤務していた中学校でも読み書きが苦手で学習に対して無気力、自己肯定感が持てず、生活全般がルーズになっている生徒がいました。当時は、こちらができる学習支援としては、やはりプリントなどを使った繰り返し学習程度と教師の姿勢に頼らざるを得ませんでした。その頃にマルチメディア DAISY のような教材があったら、その生徒達ももっと楽しく学習に取り組めたのではないかと思います。「自分ができることを他者に知られたくない」というのは、思春期の生徒がよく持つ感情です。反抗的な態度をとっていても「読めるようになりたい」「書けるようになりた



い」という要求は高いものです。普通学級にも様々な困難を抱えた児童生徒が数多くいます。そういった子ども達が少しでも楽しく学習に取り組める環境が高まっていけばいいと考えました。

- DAISY の話を聞いた人がいいよ…というのを聞いて今日は受講した。実際、見せてもらい…おみやげももらいうれしいです。

講座 D

講義「発達障がいのある子どもの学習支援～具体物と ITC の相互補完的活用～」

講師：近藤 春洋 先生

1. 感想

- 学習の問題を脳の機能からとらえていくということをはじめて聞いたがわかりやすく、なぜできないかが理解できた。ドリルは向上しないので、どうしたら…と思っていたが、その理由と具体的な支援方法が聞けてよかった。
- 今、悩んでいたこと（算数指導）のヒントをもらえた気がしました。来てよかったです。ありがとうございました。
- 算数障害と脳の関係について、とてもよくわかりました。近藤先生のお話を聞いて、新しい教材のアイデアが浮かびました。2 学期から使ってみようと思います。
- 計算はできるけれど式を作ることができない子どもたちが多くいますが、その理由がすっきりとわかったような気がします。とてもわかりやすかったです。「なるほど」と思う指導方法を教えていただいたので、2 学期の学習に役立てたいと思っています。
- 脳から見た学習という部分を入れていただいたことで、頭の中で算数障がいのことが整理できました。ドリル学習が主流になっている学校が多い中、脳
- との関わりを示していただくことで、何故、ドリルだけではだめなのか、どうすれば理解させることができるのかが、とてもよくわかりました。ソフトだけでなく具体物の操作だとかたくさんさせることが大事になるというのもわかりました。ありがとうございました。たくさんの先生に今日の内容を知ってもらいたいです。



講座 E

講座「iPad と Keynote で教材作り」

講師：根本 貴明 先生

1. 感想

- 2 学期より、支援学級に iPad が 1 台入ってきます。はじめて iPad を使うために基本的な使い方からとてもいねいに教えていただきましたので、たいへん勉強になりました。たくさんおアプリも紹介していただきましたので、使いたいと思います。たいへんよかったです。ありがとうございました。



- iPadの活用の仕方がよく分かりました。授業で使えるようなアプリもたくさん教えていただけたので参考になりました。
- 興味深いアプリをたくさん知ることができました。ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。iPadは、初めてだったので難しかったですが、使いこなせたら、素晴らしいと思いました。
- 具体的な説明をていねいにしていただいて、とてもよい講座でした。ありがとうございました。
- 今日の実習でkeynoteとロイロノートが使いそうです。ありがとうございます。

講座F

講座「視線入力装置の活用事例の紹介と体験会」

講師：鈴木 真知子 先生、伊藤 直弥 先生

1. 感想

- 鈴木先生のお話はとても丁寧で初めて知ることたくさんあり、大変勉強になりました。視線入力装置を実際に使用されている様子を目の当たりにできて、実感できました。
- 岡本先生の視線入力は最後の手段ではないというお話に共感しました。私が視線入力を考えている子どもさんは四肢麻痺と知的障害がありますが、社交的な性格でしかしアテトーゼのような過緊張が何かしようとするとき出てくるので、もっと安楽な方法であいさつくらいできればと思って受講しました。もしかするとすごく合っているかも…?!と思いましたが、やはり高価なのでなかなか…デモ機を貸してくださる制度はないのでしょうか。
- マイトビーの可能性がわかり、学校にも導入していくべきだと思う。
- 保護者の多くは、知的障害がなければ普通学級へ入学させるべき…という考えを持たれているようで、そこは、そういうことではないということを、もっと理解してもらえるようにしないといけないと感じました。支援学校でも普通学級と交流できる機会をたくさん持っています。そういう機会を持ちながら、一人ひとりに合った勉強法を日々練っています。そこを、もっと理解してもらい子供たちのために何が一番良いのか、どこに重点を置くべきかを考えていけたらと思います。視線入力装置は大変良い技術だと感じました。一番ストレートに子供の素直な気持ちや意欲を引き出せるものだと思います。これに加え、手が使える子は、手で操作できるものを。表情で自分を表現できる子は、自分でしっかり伝える、また、こちらも気づくなど、機械を間にはさまなくてもできることは自分でやっていく、ということも、しっかり考えていかなければいけないと感じました。



講座 G

「Flash 講座 クリック教材から選択教材へ
～Flash でスキャン教材ソフトをつくろう～」

講師：竹島 久志 先生、吉村 史郎 先生、古川 和朋 先生

1. 感想

- 授業や教材で Flash を使ってみたいと思っていたので、とても勉強になりました。
- これまで避けてきた所で、今日、おもいきって参加できて、視野が広がって良かったです。
- 難しかったのですが、Flash 教材を使ってみようという足がかりになりました。
- Flash の使い方やクリック教材の活用など楽しんで取り組むことができた。質問などにも詳しく答えていただいて、わからなくなった時もすぐに解決することができました。今後、色々な教材作りに生かしていきたいと思います。遠い所からありがとうございました。
- ていねいに教えていただきよかったです。なかなか普段、ゆっくり Flash にとりくむ時間がなく、この機会に教えていただいてよかったと思いました。



講座 I

Flash 講座 「ActionScript3.0 でマッピングソフトをつくろう」

講師：神佐 博 先生

1. 感想

- Flash の講座についてある程度理解できました。今年度は書き換えに挑戦してみたいです。
- とてもレベルが高いのですが少人数なので、前向きな人におすすめだと思いました。
- AS3.0 について、その概要がよくわかりました。神佐先生の Flash 教材の形（プログラム、アルゴリズム）を丁寧に解説して頂いたので、今後の教材作成に活かせそうです。是非、HTML5 化して、タブレットでの利用ができるようにして下さい！
- AS3.0 について説明をして頂いたが、難しく、なかなか理解することができなかつた。しかし、最後には詳しい説明のおかげで全体的には理解することができたと思う。自分もこのような Flash を作れるようになりたいと感じた。



講座 J

PC 講座

「学校生活の流れを視覚化して、

子どもにとって見通しのもてる手立てをパソコンで作ろう」

講師：大前洋介先生、田村有佳梨先生、齋藤亜弓先生、石川文子先生

1. 感想

- わかりやすく説明していただいて、とてもよくわかりました。2学期からぜひ使ってみたいです。
- 「見通しを持って行動できることで安心感がもてる」というのは、支援の「いろは」だと思います。その意味で大切なスケジュール表の作成方法を分かりやすく教えていただけました。驚いたことは（当たり前かもしれませんが）いろんな便利なソフトが無料でダウンロードできるということで、そのすごさに、ただただ驚きました。
- ていねいに教えていただいて、とても助かりました。また、CDの中に、具体的な資料を入れていただき、持って帰ることができ、すぐに使えることができると喜んでいきます。ありがとうございました。
- エクセル、知ってるつもりでしたが、便利な使い方をいくつも教えてもらいました。
- 以前からシンボル等を用いて、時間割表や予定表を作りたいと思っていました。エクセルが苦手だったので、教えていただけで良かったです。
- エクセルでの予定表作りは、以前からやっているのですが、適当なイラストを探すのにいつも苦労していました。今日は、そのイラストをたくさん紹介していただき、お土産ももらって大満足です。有難うございました。
- 視覚支援のためのシンボルをたくさん紹介していただきました。2学期は各種行事のために予定変更が多く、私が担当する子どもたちは、見通しが持てず不安定になりがちです。今日作ったものをもとに、見通しが持てるような教材作りを、夏休み、とりくんでみます。ありがとうございました。



講座K

PC 講座「PPT 教材作成」

講師：根本 貴明 先生、大島 友子 先生

1. 感想

- パワーポイントの使い方を知ることができ、今後、教材作りにぜひ役立てたい。子どもの興味に合わせて、教材を活用していきたい。
- パワーポイントで教材を作りたいかったので、大変勉強になりました。ハイパーリンクの部分が、まだ、少し難しいですが、家で復習して作ってみようと思います。
- 一人では、なかなかできないことを教えていただいたと思います。本などを見ても理解できないですが、実際にやってみるとなんとわかりました。ありがとうございました。
- 具体的な教材例がたくさんあり、とても参考になりました。○×の×の飛ばし方についても迷っていたのですが、元のスライドに戻ればいいのだと納得！！すっきりしました。電車の乗り方の○×クイズは今日作ろうと思っていたのに、いいのがあったので、ありがたかったです。豪華なスタッフで手が震えました。
- ハイパーリンクの使い方を初めて知りました。教材作りが広がります。今日、たくさ



ん紹介していただいた教材もすばらしく、すぐに活用させていただけるものばかりです。本当にありがとうございました。

- 9月以降の授業で活用したいと感じました。子どもたちの感心を引きつつ取り組める工夫のひとつになりそうです。ありがとうございました。

講座L

PC 講座「教えて！Google先生」

講師：織田 晃嘉 先生

1. 感想

- ゆっくり検索のことについて楽しむことができました。ありがとうございました。
- Google 検索のいろいろな方法があることを知ることができて良かったです。教育現場で活用できそうな、ソフト、サイト、アプリなども紹介していただいたので、是非、生かしてみたいと思います。ありがとうございました。
- 検索の基本から教えていただき、自分の気になる検索を自由にすることができて良かったです。
- 涼しい環境で久しぶりにゆっくりネット検索を楽しみました。日頃、必要な内容しか検索することがなく、ネット情報を見ることも習慣化しているほどでもないのに、自由に検索できる時間は楽しかったです。ただ、事前に自分で（検索する目的を）準備した参加をさせてもらえたら、もう少し有効的なトキになったかもしれません。ありがとうございました。



講座M

講義「シンボルを使った教材作り（指導事例と教材作り）」

講師：榎場 政晴 先生、梅田 知恵 先生

1. 感想

- シンボルについて、使用目的、シンボルを通して見通しを持った支援計画の立て方を知ることができました。絵本作成もみなさんの工夫されたのを見ることができ、とても勉強になりました。
- 著作権、シンボルのお話、知らない事ばかりで、とても勉強になりました。みなさんの作品がとても参考になりました。
- コミュニケーションにつなげる為のシンボルの使い方について、分かりやすく説明していただいたのが良かったです。何を伝えるのか子どもの状況を考えながら精選していく事が大切だと思いました。
- パワーポイントで絵本をつくる取り組みが初めての経験だったので楽しみながらできた。
- 後半から参加させていただいて、作品づくりから参加しました。参加されている先生



方の作品を見せていただけだったので、とても参考になりました。ありがとうございました。



- 同じ題材、素材を使ってもそれぞれ違う作品ができあがり、鑑賞できて良かった。また、持ち帰れるのも良いと思う。

講座N

製作講座「iPad タッチャーを作ろう」

講師：糸川 美和子 先生、岡本 崇志 先生

1. 感想

- 安く・手軽に iPad タッチャーを製作させてもらえて良かったです。外部スイッチを接続させて、子ども達と使ってみようと思います。
- 
- 
- 大変わかりやすい講座でした。材料の準備は大変だったと思います。ありがとうございました。
 - iPad タッチャー製作で久しぶりにハンダ付けを体験しました。実物、または、パワーポイントで説明があればよかったと思いました。スイッチを押すと iPad の画面が反応して音がなり、すごいなと思いました。画面の反応を見て、子どもの興味関心を高めることができるよう活用したいです。
 - “iPad タッチャー” 名前は知っていましたが、中の構造もわからず使うことのためらいがありました。今回、中の様子がわかり、加えて作ることもできて良かったです。
 - ブログを見て、部品までは、自分でそろえていたのですが、細かい配線の仕方が分からなかったのが、今回の講座で、よく理解することができました。さすがにハンダ付けで難しい所がありましたが、最後、iPhone につなげて反応してくれた時は、とても感動！！でした。ありがとうございました。そして、暑い中のご準備もご苦労様でした。

講座O

製作講座「タイムタイマーの製作」

講師：禿 嘉人 先生、外山 世志之 先生、谷本 式慶 先生

1. 感想

- とてもわかりやすく、丁寧に教えていただき、ありがたかったです。タイムエイド、ぜひ、学習で使いたいです。
- ハンダ付け等、あまり上手ではないのですが、分かり易く説明してくださり、また、丁寧に教えていただいたので、楽しくできました。



- 去年も参加しましたが、去年は講師の先生にほとんどやっていただいたような有様でした。今年は自分の力でと思って作業しました。何とか完成してよかったです。
- とてもわかりやすく説明していただき、ありがとうございました。制作だけではなく活用まで教えていただいたのは参考になります。
- ありがとうございました。手順書があって時間もたっぷりあって、ゆっくりペースで作ることができました。はんだ付けのコツ、すごく分かりやすかったです。
- とても楽しかったです。目に見えてわかるタイマーは、子どもたちにとっても、私たちにとっても見やすいので、納得できやすい代物だと思います。「我慢」ということは、すごく難しいので、これを使える子には使って試していきたいと思います。（ハンダゴテがよく分かるようになりました。ありがとうございました。）

講座 P

製作講座「おにぎり型 VOCA・おにぎり型スイッチの製作」

講師：禿 嘉人 先生、外山 世志之 先生、谷本 式慶 先生

1. 感想

- 大変和やかに講座が運営されていて楽しい時間を過ごせました。学校に持ち帰り、すぐ使えるのでうれしかったです。
- 苦戦しつつも、できて良かったです。何でもスタート、さっそく見えそうな子に使います。
- 実際に作るので楽しく取り組めた。せっかく作ったので上手に活用していきたい。
- VOCA は前から作って見たかったので、作れて良かったです。外部スイッチが使えるように改造する方法が少しわかってきました。
- 2000 円でたくさんの教材が作れて大満足でした！学校の児童に使用して活用したいと思います。とても難しかったけど、作るのは楽しかったです。
- ありがとうございました。3つ作成できるかな??ドキドキでしたが、楽しかったです。昨日、今日、ずっと「はんだ」だったので、中学ぶりの「はんだ」楽しくなりました。少し上手になったかな??と思います。教材研究、教材作りっていう過程が楽しかったりします。そして、子どもたちが使ってみて、ヒットするとうれしいんですよ！今、担任しているクラスでは、作った中で「使えるかも?」「難しいかな?」というもの、「工夫すれば…」というもの、いろいろありますが、授業作りに活かしていきたいと思います。来年も、こんな製作講座があれば参加したいと思います。
- 久しぶりに製作講座に参加して楽しかった。マジカルの方々、ありがとうございます。



平成25年11月25日

各 学 校 長 様
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会
会 長 中 島 智 子
(松原市立河合小学校校長)

冬 季 研 修 会 の ご 案 内 (二次案内)

晩秋の候、先生方もご活躍のことと存じます。

9月に一次案内を出しました大阪府支援教育研修会研修部主催による冬季研修会を以下の要項で実施いたします。ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

記

- ① 日 時 平成26年(2014年) 1月25日(土)
午前10時～午後3時15分 (9時40分 受付開始)
全体会(午前10時～12時)
分科会(午後1時15分～3時15分)
- ② 場 所 大阪府教育センター Tel 06-6922-1882
〒558-0011 大阪市住吉区菟田4-13-23
地下鉄御堂筋線 あびこ 東北東 約700m
JR阪和線 我孫子町 東 約1400m
近鉄南大阪線 矢田 西南西 約1700m
- ③ 内 容 午前に講演、午後に3つの分科会を行います。内容は別紙をご参照ください。
午前・午後ともに参加していただくことを基本としますが、どちらかだけの参加も可とします。午後の分科会は、定員を30～50名と少人数に設定して、参加される方の意見交換や活動が積極的に行えることを期待しています。会場の定員を超え、お断りする場合には、ご連絡いたします。

午前の部 全体会 午前10時～12時 (9時40分 受付開始)

「子どもたちの将来をみすえた指導・支援の充実」

大阪府立泉北高等支援学校校長 長谷川陽一先生

(A) **「教育アセスメントの意義と活用」～WISC-IV、K-ABCⅡを中心に～**

大阪府立佐野支援学校 清水謙二先生

(B) **支援教育に関わる福祉制度について**

大阪手をつなぐ育成会 支援センター中 所長 杉山萬千子氏

(C) 研究部担当 各地区からの実践報告

① **「ビジョントレーニングを学級に取り入れて」**

和泉市立国府小学校 井阪幸恵先生・川村亜紀先生・徳永清恵先生

② **人生の振り返りと将来に向けてのステップ ～ICTを利活用した発表会の実践報告～**

大阪府立寝屋川支援学校 森脇 啓仁先生

④ 申し込み期間 平成25年12月 9日(月)

～ 26年 1月10日(金)

ただし、各講座、会場の定員に達し次第、受付を締め切ります。

⑤ 申し込み方法

大支援研のHPから、申し込みお願いします。

「大支援研」で、検索してください。

<http://daishienken.visithp.com>

氏名、所属校、参加希望講座、連絡先を必ず明記してください。

☆ HPから申し込みされたら自動送信で返信をお送りしますが、その時点では参加確定ではありません。まだ定員に達しておらず参加いただくことが可能でしたら、お返し「参加確定メール」をお送りします。その時点で参加の確定となります。もし、定員超過の場合等、ご希望に添えない場合には、「お断り」のメールをお送りします。

連絡は、申し込みされたアドレスに送らせていただきますので、返信メールの受信が可能かどうか、ご確認ください。学校のPCや携帯電話などから申し込まれた場合に返信メールが届かない事例がありました。

返信メール以外での連絡をご希望される場合、「通信欄」に勤務先またはご自宅の連絡先(メールアドレス、電話またはFAX番号 など)をご記入ください。

☆ もし、申し込み後、1週間以上、連絡がない場合には、申し訳ありませんが、お問い合わせください。

⑥ 問い合わせ先

大阪府支援教育研究会 書記(研修部担当) 佐藤正幸

摂津市立第四中学校

TEL 06-6349-6181

FAX 06-6349-6184

または、大支援研のHPから、お問い合わせください

大阪府支援教育研究会 2013年度冬季研修会 講座の内容

午前 全体会

「子どもたちの将来をみすえた指導・支援の充実」

大阪府立泉北高等支援学校校長 長谷川陽一先生

国連で採択された「障害者の権利に関する条約」を背景に、インクルーシブ教育システムの構築に向けた検討や就学先決定についての法改正が一部なされるなど、支援教育をとりまく状況や価値観は、日々、深化しています。また、このことは、ユニバーサルデザインという言葉に象徴されるように支援教育の領域にとどまりません。

今回は、子どもたちの将来をみすえた指導・支援の充実のために、キャリア教育、進路指導などの観点から、大阪の「ともに学び、ともに育つ」教育の意義や成果等を再確認するとともに、小、中学校、高等学校、支援学校等に在籍する幼児、児童、生徒の指導・支援のあり方について参加者の皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

午後 分科会

(A) **「教育アセスメントの意義と活用」～WISC-IV、K-ABC IIを中心に～**

大阪府立佐野支援学校 清水謙二先生

教育アセスメントの目的は、児童生徒一人ひとりのニーズを把握し、児童生徒が必要とする支援の内容と方法を明らかにすることであり、そのためには、的確なアセスメントを行うことが必要です。アセスメントの方法としては、情報収集法、行動観察法、検査法があり、こうした手法を用いて、児童生徒の興味・関心、人との関わり、心理的な安定の状態、コミュニケーションの状態、知的発達の程度、行動の特徴、発達の進んでいる側面、得意とする学習様式(学習スタイル)など、子どもの現在の様子を詳細に把握することが大切です。この講座では、教育アセスメントの意義と活用について、主に検査法(WISC-IV及びK-ABC II)を中心に概説し、WISC-IVの事例を基に、解釈からどのように支援につなげていくかについて考えていきたいと思ひます。

(B) **「支援教育に関わる福祉制度について」**

大阪手をつなぐ育成会 支援センター中 所長 杉山萬千子氏

支援教育に携わる教職員が、障がい手帳をはじめとする福祉の制度についての理解を深め、保護者の疑問や不安に対処できる知見を持つことは重要だといえます。

療育手帳や精神障害保健福祉手帳を取得する児童生徒が増えてきています。どのように判定されるか、福祉サービスのシステムにはどのようなものがあるか、教職員が正しく理解を深めていく必要があります。

講師の方は、子ども家庭センターなどで長く障がい者福祉に関わってこられました。保護者の方の思いをくみ、児童生徒の将来をふまえて、どのように学校教育と福祉が連携していくか、さまざまな事例をもとに有意義なお話を聞かせていただきます。

(C) 研究部担当 各地区からの実践報告

①「ビジョントレーニングを学級に取り入れて」

和泉市立国府小学校 井阪幸恵先生・川村亜紀先生・徳永清恵先生

学級の中には、音読の際に読み飛ばしが多かったり、漢字を正しく書けなかったりする子どもがいます。また、何となく不器用だったり、ボール運動だけが苦手だったりする子もいます。それらの原因が、実は「きちんと見る」ことができていなかったという場合があります。その弱さを補うために始めたビジョントレーニングを通常学級のクラス全体で行って来ました。9年間続けてきた実践をもとに「ビジョントレーニングとはどういうものか」「ビジョントレーニングの様々な効果」についてお話しします。

また、通常学級・支援学級・通級教室それぞれの場での取り組みについてもお話しします。具体的な実践内容をお伝えしますので、今後の指導のお役に立てれば、と考えています。

②「人生の振り返りと将来に向けてのステップ ～ICTを利活用した発表会の実践報告～」

大阪府立寝屋川支援学校 森脇 啓仁先生

知的障がいのある生徒が自身の過去を振り返り、現在の姿を直視し、さらに将来の姿を考えることはかなり難しいです。たとえそれらが記述できたとしても、多くの人前でそれを発表するとなると、発表するという経験がほとんどない彼らにとっては至難の業です。この実践は、これまで取り組んできたICT教育のまとめとして、今年度末に卒業を控えている高等部3年生で行ったものです。

発表会までに発表原稿を作り、PowerPoint の操作方法や発表方法の研究、そして発表会のリハーサルを繰り返すなどのプレゼンテーションスキルの向上を目指し、余裕をもって堂々と発表できる姿勢を学び、成功体験に結び付けようとしてきました。

卒業後はこれまでに経験したことがない「社会人」という大きなステージが待ち構えています。過去の姿から逃げ出すことなく、振り返り、直視し、将来に向けての足がかりにしてほしいという思いから、3年間取り組んできたICT教育の成果を活かしてプレゼンテーション原稿を作成し、多くの人前でこれを発表するという学校生活の集大成としてこの実践を行った報告です。

☆ それぞれの講座内容についての具体的な質問や、講師の方に相談されたい事例がありましたら、お申し込みの際に、「通信欄」にご記入ください。

なお、具体的な事例について書かれる場合には個人情報にご配慮ください。